

## 令和7年度 第2回総合教育会議 議事録

会議名称	令和7年度 第2回総合教育会議
開催日時	令和8年3月9日（月） 10時00分～11時00分
会 場	芦屋町 本庁舎3階 課長会議室
委員の出欠	<p><b>【委員】</b></p> <p>町 長            貝掛 俊之       〔出席〕          教 育 長        三柵 賢二       〔出席〕          教育委員       長戸 隆弘       〔出席〕          教育委員       井上 弘行       〔出席〕          教育委員       森山 真奈美    〔出席〕          教育委員       佐伯 慎也       〔出席〕</p> <p><b>【委員以外の出席者】</b>（オブザーバー）</p> <p>副 町 長                            中西 新吾          学校教育課長                      木本 拓也          生涯学習課長                      本石 美香          芦屋釜・歴史文化課長            新郷 英弘</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>企画政策課長                      本郷 宣昭          企画政策課 企画係長              矢野 健太          企画政策課 企画係                田中 裕也</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和7年度の取り組み状況及び令和8年度の取り組みについて</li> <li>2 令和8年度総合教育会議の協議事項及びスケジュールについて</li> <li>3 その他</li> </ol>
合意・決定事項	<p>○次回の会議は8月開催。          緊急の事案があれば、その都度開催する。</p>
傍聴者	なし

# 令和7年度 第2回総合教育会議 議事録

## 1 町長あいさつ

本日は大変お忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。

当初の開催日程から急遽日程が変更となり、まずはお詫び申し上げます。

総合教育会議は、教育委員会と行政執行部がお互いに意見を交わし、円滑に教育行政を進めていこうという趣旨のもと、平成23年(2011年)の法改正により設置されたと認識している。

今後の芦屋町の教育のため、皆さんの忌憚のない意見をお願い申し上げます。

## 2 議 題

### (1) 令和7年度の取り組み状況及び令和8年度の取り組みについて

#### 【資料1】令和7年度の取り組み状況及び令和8年度の取り組みについて

- 学校教育に関する事項は三桝教育長、社会教育に関する事項は本石生涯学習課長、歴史・文化に関する事項は新郷芦屋釜・歴史文化課長より説明。

#### 【意見など】

- 生成AIを導入した授業は、中学生のみが対象か、それとも小学生も含まれるのか。  
⇒ まずは小学校から導入していきたいと考えている。ただし、Microsoft や Google の年齢制限などの課題がある。それも少しずつ制限が緩和されていると聞いているので、先進地の事例などを参考に準備を進めている。
- 資料にある「eライブラリーのスタディログ活用」とは、具体的にどのようなものか。  
⇒ AIが児童生徒一人一人の学習履歴(ログ)を分析し、その子の習熟度に応じた最適な問題を自動で選択して提示する仕組み。例えば、5年生の問題がスムーズに解ければ発展的な問題を、逆に4年生の内容でつまづいた場合は、4年生の内容まで遡って復習問題を出すことができる。
- 生成AIを導入した授業の実施にあたり、教員向けの研修は実施されるのか。  
⇒ 先進地の講師を招き、夏休み期間中に教員対象の研修会を開催する。
- 教員の生成AIの活用は非常に効果的であると思うが、小中学生がAIに頼り切りになり、思考力が低下するリスクについてはどう考えているか。  
⇒ 「0からAIに答えを出させる」ような使い方は避けるべきだと考えている。自分の考えを深めるためのツールとして活用し、主体性や考える力を育むことを重視する。安易な利用を防ぐため、ルール作りやガイドラインの策定を先行させる方針である。
- 個人的には、小中学生には生成AIを導入しないほうがいいのではと考えている。将来的に、AIを使いこなせる子とそうでない子に分かれてしまい、宿題をAIに回答させ、勉強した気になり、実際のテストでは点数が取れない子が出てきてしまうのではないかと感じている。時代背景もあるが、学力の向上にはあまり効果がないのではないかと思う。  
⇒ 生成AIを使うことを主な目的としておらず、考える力や主体的な学習を進めるうえで、自分の考えをより確かなものにするための手法としてとらえている。現時点では調査研究が進んでいないため、これからの課題として考える。
- 芦屋町ではICT教育を積極的に導入しており評価しているが、海外では「脱デジタル」の動きもある。タブレット導入前後での学力の変化は調査しているのか。

## 令和7年度 第2回総合教育会議 議事録

- ⇒ タブレットなどの ICT 活用の有無のみを抽出した学力比較は、現状では行っていない。しかし、全国調査において芦屋町の ICT 活用頻度は非常に高い水準にある。また、海外の一部の脱デジタルの動きについては、文部科学省も把握している。それを踏まえて、文部科学省の方針では、教科書のデジタル化を進めようとしていることから、参考にしつつ進めていきたい。
- タブレットなどの ICT を活用した教育の導入前と導入後の学力の変化の調査について、導入して効果があった分野は継続して活用し、効果がなかったものは紙とペンに戻すことも検討してみてもどうか。
- ⇒ 文部科学省の調査によると、ICT を積極的に活用したほうが学力が高くなっているという結果もある。因果関係まではわからないが、新しい教育を進めていくというチャレンジも含め、学力向上が図られているものと認識している。また、芦屋町としては、ICT 教育の推進について、力強い支援をいただいていると感じている。さらに、海外の一部の脱デジタルの動きについては、ICT 教育が浸透した結果に基づいて対応していると思う。芦屋町では、まだその段階まで来ていないと感じているため、今後の検証は必要であると思う。
- 生成 AI の導入について、文部科学省のガイドラインが示されているが、教育委員会でも作成するものと認識している。導入にあたり、リスクを認識しておかないとモラルの無い使い方をされることを危惧している。教員への研修に加え、ガイドラインの作成とその周知が必要であると考えます。
- ⇒ 先進地のものを参考にしながらガイドラインの作成を考えている。AI 頼りではなく、「主体的な学び」を芦屋町は今後も重視していく。
- タイピング練習の導入により、以前行われていた「朝の読書時間」が削られているのではないかと。電子図書も導入しているので、紙の本と併せて活用しながら読書も大切にしてもらいたい。
- ⇒ 読書が学力向上に寄与することは認識しており、今後も読み聞かせや読書活動の推進は継続していく。タイピング練習は昼休み後などの帯時間(隙間時間)を活用しており、必ずしも読書の時間を削って行っているわけではない。
- 芦屋鋳物師の養成について、2名の採用で1名辞退されたとのことであったが、残り1名は、実際に今も活動されているのか。また、差支えなければ、辞退理由も確認したい。
- ⇒ 現在、1名の養成員が令和6年11月から技術習得に励んでいる。辞退した1名については、関東の大学生であり、最終的に九州への移住に対する不安が大きくなったことが理由と聞いている。
- 今後もう1名は採用していく予定なのか。
- ⇒ 八木氏と樋口氏それぞれに1名ずつ、2名を養成していきたいと考えているため、もう1名採用したいと考えている。令和8年度に再度募集をかけ、採用予定者との都合がつけば年度途中に、都合がつかなければ、令和9年4月より採用したいと考えている。

## 令和7年度 第2回総合教育会議 議事録

### (2) 令和8年度総合教育会議の協議事項及びスケジュールについて

- 事務局より説明した。意見は特になし。

### (3) その他

#### [事務局より]

- 緊急事案がなければ、今年度の会議は本日が最後となる。次回の会議は8月の教育委員会にあわせて開催する。緊急の事案があれば、その都度開催する。